CASBEE®さいたま2016年版 評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版　I使用評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要

建物名称	株式会社エス・ワイ・エス工場	階数	地上3F
建設地	さいたま市西区大字飯田字観音前41-1他19筆	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	86 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年　予定	評価の実施日	2025年11月4日
敷地面積	7,746 ㎡	作成者	
建築面積	1,832 ㎡	確認日	
延床面積	5,267 ㎡	確認者	

1-2 外観

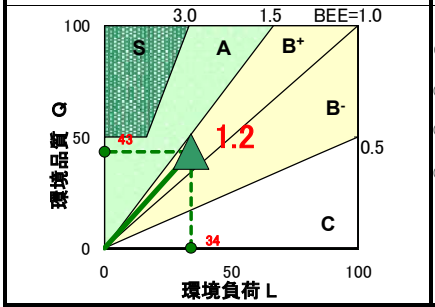
外観パース等

図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

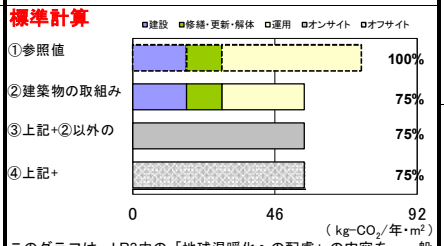
BEE =1.2

S: ★★★★★ A: ★★★★ B⁺: ★★★ B⁻: ★★ C: ★



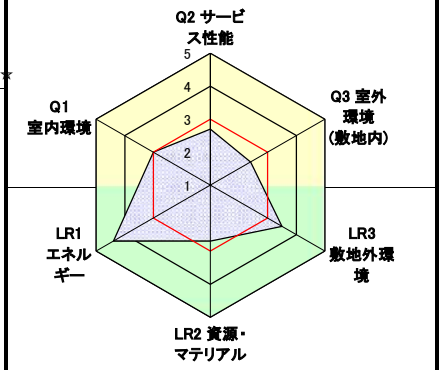
2-2 ライフサイクルCO_2(温暖化影響チャート)

30%: ☆☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆



このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

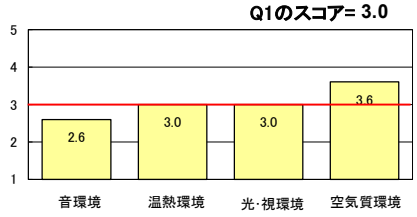
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



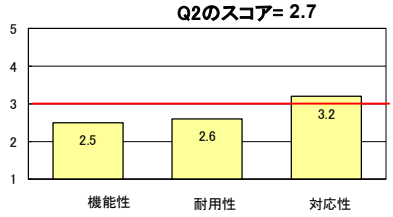
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質　　Q のスコア= 2.7

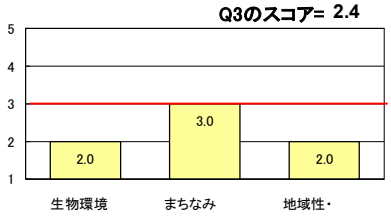
Q1 室内環境　Q1のスコア= 3.0



Q2 サービス性能　Q2のスコア= 2.7

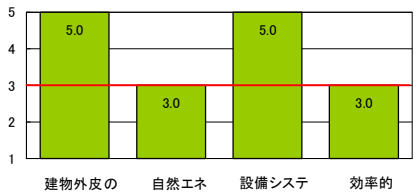


Q3 室外環境（敷地内）　Q3のスコア= 2.4

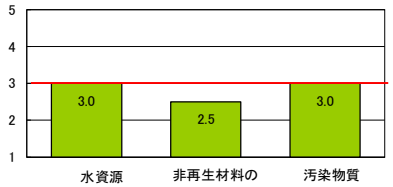


LR 環境負荷低減性　　LR のスコア= 3.6

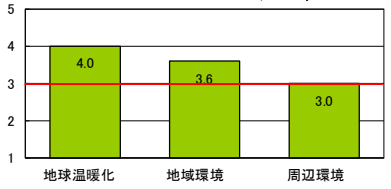
LR1 エネルギー　LR1のスコア= 4.4



LR2 資源・マテリアル　LR2のスコア= 2.7



LR3 敷地外環境　LR3のスコア=3.5



3 設計上の配慮事項

総合

・敷地周辺を極力緑化し、周辺の自然環境の保全に努めた。
・効率の良い空調方式を採用する等、省エネルギー化を図る計画とした。

その他

0

Q1 室内環境

空調方式は熱源効率の良い空冷ヒートポンプ方式（冷暖切替）とし、部門毎にゾーン分けする計画とした。

Q2 サービス性能

執務スペースはゆとりのある広さ、天井高を確保し、リフレッシュスペースを広く計画した。

Q3 室外環境（敷地内）

周辺の環境に配慮し、敷地外周に植栽を計画した。高木・中木をバランスよく配置することで、敷地内外へ日陰が形成出来るよう配慮した。

LR1 エネルギー

・照明は必要な照度を確保しつつ、消費エネルギーを削減する計画とした。
・適切な外皮性能を計画することで、空調の消費エネルギーを低減する計画とした。

LR2 資源・マテリアル

・水栓には節水コマを取付る計画とし、水源の保護に配慮した。
・冷媒はODP＝0の冷媒を使用しオゾン層の破壊を防止する計画とした。

LR3 敷地外環境

各法令及びさいたま市条例を遵守することで敷地外の環境へ配慮する計画とした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency（建築環境総合性能評価システム）
■Q: Quality（建築物の環境品質）、L: Load（建築物の環境負荷）、LR: Load Reduction（建築物の環境負荷低減性）、BEE: Built Environment Efficiency（建築物の環境効率）
■「ライフサイクルCO_2」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO_2排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEEさいたま2016年版
株式会社エス・ワイ・エス工場

■使用評価マニュアル：CASBEEさいたま2016年版
■評価ソフト：CASBEEさいたま2016ver.2.0

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート　　実施設計段階

配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q　建築物の環境品質						**2.7**
Q1　室内環境			**0.32**		-	**3.0**
1 音環境		**2.6**	0.15	-	-	**2.6**
1.1 室内騒音レベル		**3.0**	0.40	-	-	
1.2 遮音		**3.0**	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能（軽量衝撃源）		3.0	-	-	-	
4 界床遮音性能（重量衝撃源）		3.0	-	-	-	
1.3 吸音		**1.0**	0.20	-	-	
2 温熱環境		**3.0**	0.35	-	-	**3.0**
2.1 室温制御		**3.0**	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御		**3.0**	0.20	-	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		**3.0**	0.25	-	-	**3.0**
3.1 昼光利用		**3.0**	0.30	-	-	
1 昼光率		3.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策		**3.0**	0.30	-	-	
1 昼光制御		3.0	1.00	-	-	
3.3 照度		**3.0**	0.15	-	-	
3.4 照明制御		**3.0**	0.25	-	-	
4 空気質環境		**3.6**	0.25	-	-	**3.6**
4.1 発生源対策		**4.0**	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	建築基準法規制対象外となる建築材料は全てF☆☆☆☆を採用	4.0	1.00	-	-	
4.2 換気		**3.3**	0.30	-	-	
1 換気量	建築基準法・建築物衛生法を満たす換気量の1.2倍の換気量確保	4.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理		**3.0**	0.20	-	-	
1 CO_2の監視		3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
Q2　サービス性能		–	**0.30**	-	-	**2.7**
1 機能性		**2.5**	0.40	-	-	**2.5**
1.1 機能性・使いやすさ		**3.0**	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		**2.3**	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		**2.0**	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性		**2.6**	0.30	-	-	**2.6**
2.1 耐震・免震・制震・制振		**3.0**	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		**3.0**	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性		**1.4**	0.20	-	-	
1 空調・換気設備		1.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備		1.0	0.20	-	-	
3 電気設備		1.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備		1.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性		3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり		1.8	0.30	-	-	
1 階高のゆとり		1.0	0.60	-	-	
2 空間の形状・自由さ		3.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり	工場部分：床の積載荷重が4500N/㎡以上	5.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性		3.0	0.40	-	-	
1 空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2 給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3 電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4 通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6 バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境（敷地内）		–	0.38	-	-	2.4
1 生物環境の保全と創出		2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮		2.0	0.30	-	-	2.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		1.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-		-	3.6
LR1 エネルギー		–	0.40	-	-	4.4
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI 0.77	5.0	0.20	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	[BEI][BEIm] = 0.59	5.0	0.50	-	-	5.0
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1 モニタリング		-	-	-	-	
4.2 運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル		–	0.30	-	-	2.7
1 水資源保護		3.0	0.20	-	-	3.0
1.1 節水		3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	ー	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	ー	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		3.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避		3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避		3.0	0.70	-	-	
1 消火剤		-	-	-	-	
2 発泡剤（断熱材等）		3.0	0.50	-	-	
3 冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境		–	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出量が一般的な建築物に対して75%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮		3.6	0.33	-	-	3.6
2.1 大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	敷地内を積極的に植栽を計画した	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.5	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	利用者用駐車場・駐輪場及び管理車両用駐車スペースを計画	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1 騒音		3.0	0.33	-	-	
2 振動		3.0	0.33	-	-	
3 悪臭		3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制		3.0	-	-		
3 日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制		3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光（グレア）への対策		3.0	0.30	-	-	